

背景・目的

市内のトマト栽培では、摘果しない栽培方法が主流ですが、下段の着果制限を行い、生育や果実の収量及び品質に与える影響について調査しました。

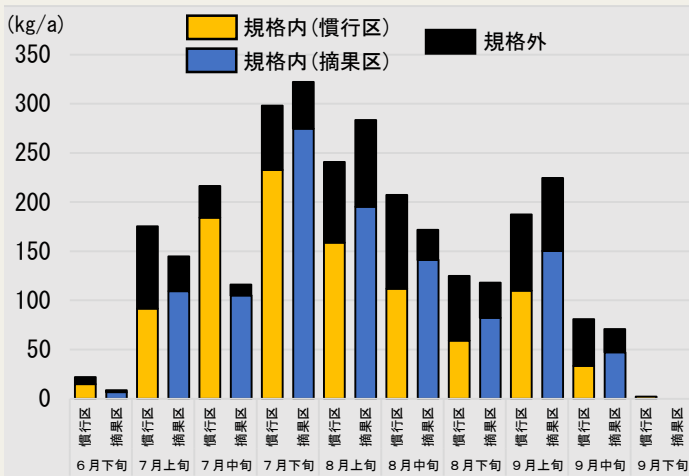
結果

品種	調査区	着果制限	灌水管理
麗月	慣行区	着果制限なし	同一ベッドに配置し、灌水量及び灌水頻度は同じとした
	摘果区	1～3段目、3果に着果制限。4段目以降、制限なし	

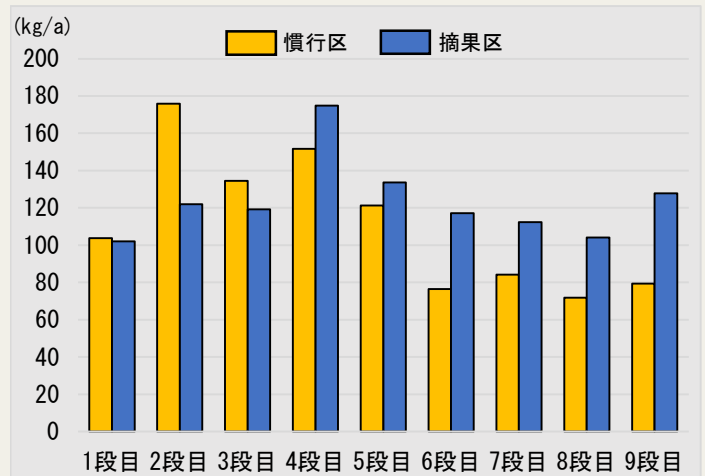
摘果区の生育・収量

- ・摘果による樹勢への大きな影響はなかった。
- ・慣行区に比べ、総収量は少ないが、規格内収量は多く、規格内率は高かった。
- ・「3L・2L・L・LM」サイズが多く、大玉傾向であった。
- ・旬別の規格内収量は、7月下旬に慣行区を上回り、その後は慣行より多かった。
- ・段別の収量は、2～3段目は慣行区の方が多く、4段目以降は摘果区の方が多かった。

	総収量 (kg/a)	規格内 収量 (kg/a)	規格内率 (%)	規格別収量 (kg/a)						平均 1果重 (g)
				3L	2L	L	LM	M	S	
慣行区	1,556	999	64.2	68	108	242	250	206	125	168
摘果区	1,461	1,113	76.2	87	163	293	277	215	78	178



旬別収量



段別収量

摘果区の品質

規格外収量は、慣行区に比べ、特に「着色不良果」「とがり果」「裂果」「小果」が少なかった。

規格外収量 (kg/a)	規格外要素別収量 (kg/a)						
	着色 不良果	とがり 果	裂果	尻腐果	小果	その他	
慣行区	557	162	108	93	26	75	92
摘果区	348	82	52	53	38	37	86



着色不良果



とがり果

結果の活かし方

3段目までの摘果作業は必要になりますが、着果制限を行うことで、果実が肥大化し、規格外果が減少する傾向が見られ、規格内収量を向上させる効果が期待されます。